誰も置き去りにしない社会へ

杉山あつし だより

県政へのご意見をお寄せください

発行者：杉山あつし（静岡県議会議員）　静岡市駿河区富士見台2丁目3-34-13
電話 090-1279-1443　FAX 054-282-0143

第２９号（2026年７月２５日発行）

ご挨拶

7月7日に県議会6月定例会が閉会。今定例会の最大関心事は、リニア静岡工区の着工に前提となる自然環境保護協定の締結と、工事着工に必要な法令手続き・申請の許可を鈴木康友知事が表明するのかどうかという点でした。各会派の代表質問では、JR東海社長との面談や協定締結の期日・予定について答弁がなく、マスコミ報道が先行したことに対して特別発言などがあり、知事からお詫びと追加説明がありました。

最終日には全員協議会が開催され、県の対応について詳しい報告がありました。ここまで時間をかけ慎重に進めてきたにもかかわらず、最後になって拙速感が前面に出た印象を強く受け残念です。流域住民や関係者は困惑したのではないでしょうか。今後も地域住民への説明と許可した場所などの定期的な報告を求めていきます。

静岡県は県自体の魅力を向上させ、交流人口の増加や企業誘致に力を入れ、2025年度の移住者が過去最大の3,395人を記録しました。一方で魅力を損ねているのが、浜岡原発の偽装事件、小山町への高速滑空弾の配備、リニア建設での水不足の懸念、警察の冤罪です。全県をあげて静岡県の魅力を高める思いを共有していくことを、これからも言い続けたいと思います。

4月の人間ドックで重度の不整脈が見つかり、4月27日に済生会病院に入院し、心臓ペースメーカー装着手術を受けました。経過は良好で予定より早く退院することができました。すでに入院前と同程度に活動しています。高額療養費助成制度のお世話になりました。

この間の街頭演説では、県立高校再編の必要性、コストコ進出の動きが止まっていること、県財政が危機レベルではなかったこと、浜岡原発の基準値震動偽装による影響などを訴えています。

静岡県議会壇上にて

県議となり8年目を迎えました。
皆さんとの意見交換、対話を重視し活動していきます。

静岡県議会 6月定例会本会議質問 (6/25)

県議会議員の年に一度の本会議質問で登壇。女性職員増加に伴うトイレ・更衣室整備の遅れへの対応、動物愛護団体が実施する犬猫譲渡会への支援、基準地振動偽装に伴う浜岡原発審査のやり直しによる運転可能期間の明示、静岡市より1.5キロ長い沼津鉄道高架の見直し、25式高速滑空弾の小山町配備に関する確認文書違反の専門家検証などを質問しました。

女性職員増加に伴う職場環境整備については、利用率の高い洋式トイレへの変更から進めるとの答弁、動物愛護団体支援については譲渡会の周知を県として行うとの具体的答弁がありました。一方、浜岡原発の運転可能期間の明示、沼津鉄道高架の見直し、25式高速滑空弾の検証についてはゼロ回答でした。雨の中でしたが約50人に傍聴いただき、終了後の昼休みに意見交換を行いました。

県立大学「学生助けたいんじゃー」県議報告会 (6/25)

学生の貧困報告会

学生への食糧支援などを行う「学生助けたいんじゃー」の学生2人が県議会議員向け報告会に参加し、貴重な経験談をお話いただきました。会派「ふじのくに県民クラブ」の県議11人が参加し、苦学生だった経験を持つ県議からは「対象学生の生活状況はどの程度か」などの質問がありました。また、運営資金が不足しつつある状況に対し、寄付集めなどの助言もあり有意義な交流ができました。

厚生委員会　質疑 (6/30)

今年度は厚生委員会に所属。4番目に質問に立ちました。約1時間にわたり、放課後等デイサービスの施設数・利用者数の大幅増加、子宮頸がんワクチン積極勧奨再開に伴う副反応者の状況、外国にルーツを持つ子どもが通う外国人学校（ブラジル人学校）への支援、職域国民健康保険への特定検診経費支援、介護保険法改正に伴う影響と特定地域指定への対応などを質問。放課後デイは運営費が他事業より手厚く参入しやすいため過剰気味で、厚労省も見直しを検討中とのことでした。小学校給食の公費負担が始まった一方、ブラジル人学校への給食費相当の支援は行われていない現状を確認し、いくつかの要望を伝えました。

リニア関係要請　立会 (4/10、6/22、6/30)

副知事リニア要請

リニア記者会見

4月10日に平木副知事へ会派で作成したリニア関係の要請書提出に、リニアPT事務局長として同席。私からは、最近の「年内にも着工」との報道により地域住民が大きな驚きを示していることを伝え、不安を与えないためにも、林道のり面補強工事、作業現場のヤード造成工事、作業用トンネル工事など、具体的な工事場所を明らかにするよう求めました。

その後も「大井川を守る62万人運動」などの市民団体による県へのリニア関係申入れ・意見交換の場を設けるなど対応しました。さらに、6月22日の記者会見、6月30日の署名提出にも立ち会わせていただき、その都度、大井川流域の自治会代表者などを対象とした説明会の開催を県に対し要望しました。

ヘイトNO全国キャンペーン in 静岡 (4/18)

「外国人が優遇されている」「外国人は税金を払っていない」「社会保険にただ乗りしている」「生活保護が多い」などのデマが横行しています。このような現状に対し、「在留外国人が仕事をしていれば所得税・住民税は給与から徴収され、消費税やガソリン税などの間接税も当然支払っている」、「社会保険は国籍に関わらず本人と雇用主が保険料を負担しており、在留外国人は若い世代が多く病院受診は少なく、むしろ高齢者医療を支えている」、「生活保護世帯に占める外国人割合と人口に占める外国人割合はほぼ同じで優遇の実態はない」等の報告を聞くことができました。

311を忘れない　福島こども支援募金(6/11)

福島の子どもたちの健康を支える団体を応援する街頭募金活動で、2014年から年4回実施。今回で50回目となりました。原発震災の教訓として原発事故の悲惨さを伝え続けるとともに、福島の子どもたちを支える活動に今後も協力していきます。

福島こども支援募金

福島原発震災情報連絡センター　第16回総会・講演会(4/23)

会場の福島県いわき市・湯本温泉に移動。総会後の講演では、大熊町で津波により妻・2女を亡くされた木村紀夫さん（大熊未来塾）から、国の補助で放射能汚染がひどい建物は解体された一方、壊す必要のない図書館や文化センターまで解体・建替えが進んだこと、原発関連の税収で豪華な公共施設が整備され、現在は復興予算で大規模なインフラ整備が続いていることなどのお話を伺いました。また、汚染土壌は最終処分場に運び出す方針であるものの受入先が決まらず、結果として原発近くに置かざるを得ない状況にあるとの指摘もありました。過去の地震や災害から学ぶことの重要性、そして防災も原発事故も事前の備えが何より大切であるという貴重な話を聞くことができました。

県立美術館40周年式典

県立美術館40周年式典来賓あいさつ(4/24)

県議会文化観光委員会委員長として議長代理で出席し、祝辞を述べました。式典後は翌日から始まる企画展「静岡県立美術館をひらく 7つの扉展」を鑑賞しました。組合役員時に何度も職場を訪れ、土日の勤務が多いことや、年始開館が始まり長期の休みが取れなくなったとの相談を受けたことなどを思い出しました。

自治体政策情報センター主催 「地方×国政策研究会」(5/21)

今回のメインは「介護保険法改正」。国会で審議中（6/19成立）であり、人口減少地域を「特定地域」に指定し、特定地域サービス制度で人員配置基準を緩和する点がポイントです。昨年までは山間過疎地域に限定する方向でしたが、今回は人口減少地域全般に拡大。一部の大都市を除き全国が対象となるため、サービス低下が懸念される制度変更です。また、介護保険のマイナンバー化も含まれています。介護保険法改正が主であるにもかかわらず、「社会福祉法等の一部を改正する法律」として提出されており、関心が低く国会で議論が深まらないのではないかとの指摘も理解できました。

脱原発自然エネルギー推進静岡議員の会「飯田哲也講演会」(5/23)

講演会では、太陽光パネルのコスト低下により初期投資と20年間の運転コストを含めても最も安価な発電方式となったこと、2023年の気候サミットで2030年までに再エネ3倍増が決定したこと、電気代高騰の要因は化石燃料価格の上昇と老朽発電所の延命であること、化石燃料はエネルギー転換効率が約20%で残りは廃熱となる一方、太陽光は廃熱を出さないこと、静岡県は茶畑ソーラーのモデルになり得ることなどが語られました。

飯田哲也講演会

日の出町高松線（通称、久能街道）・八幡工区の進捗確認（5/25）

長沼しげお静岡市議と、現在工事中の道路について担当課から説明を受けました。建物はすでに解体・撤去され、予定地は更地となっていますが、今後の工事は国の予算の範囲内で進める必要があり、電線地中化などの工程にはなお相当の時間を要するとの説明でした。事業の完成までには、引き続き年月を要する見込みです。

雇用状況、物価高騰の解説「産別運動交流会」（6/13）

製造業労組（JAM）からは、アメリカ・イラン戦争と円安の影響を踏まえると原油価格よりアルミや銅など非鉄金属の上昇幅が大きいこと、親会社・大手取引先への遠慮や圧力で中小企業の価格転嫁が進まないこと、現在の物価高は一種のバブルと捉えるべきとの指摘がありました。また、コロナ禍で非正規社員が減少したのは非正規を犠牲にして正規雇用を守った結果であること、物価高対策の王道は賃上げであること、2024年時点、高校卒業後18歳で働く人は5万人まで減少し、中小企業との間でミスマッチが生じている現状などを学びました。

県職員組合挨拶（6/19）

県財政は危機レベルではないこと、組織内議員としての役割、そして6月定例会で予定しているトイレ・更衣室など県職場の改善に関する質問内容を交えて挨拶を行いました。

杉山あつし　プロフィール

1962年　10月31日生（駿河区南町生まれ）
　　静岡学園幼稚園・富士見小学校・高松中学校卒業
1981年　静岡東高校卒業（16期生）
　　静岡県職員に採用（民生福祉・税務に従事）
　　（財務事務所、中部民生事務所、こども家庭相談センターに勤務）
2012年　静岡県職員組合専従役員（11年7か月）49歳時に県を退職
2019年　県議会議員選挙（駿河区）に初当選　　現在2期目
2020年　産業委員会副委員長　　2023年　文化観光委員会副委員長
2024年　文教警察委員会副委員長　2025年　文化観光委員会委員長
会派「ふじのくに県民クラブ」、静岡東高校後援会前会長

静岡ホビーショー

編集後記

5月19日の県議会臨時会では、本会議で議長選挙・副議長選挙が順に行われました。国会のように副議長を第2会派に任せるべきですが、今回も自民党が議長、副議長を独占し、副議長には統一教会との関係が深いとされる方が就任しました。被害者への配慮は見られず、自民党として問題視しない姿勢には大きな疑問が残り、誠に残念です。

5月13日に静岡ホビーショーを視察し、青島文化教材社の青島大輔社長と意見交換。青島社長は、現在ホビーショー主催団体「静岡模型教材協同組合」の代表で、静岡東高PTA活動で知りあいました。

江戸時代に2人の男系の女性天皇（明正天皇・後桜町天皇）がいたことが報道されていないように感じます。江戸時代までの伝統で考えれば愛子様は天皇候補であり、明治期に伝統が変えられたことをどれだけの国民が知っているのだろうか。

■杉山あつし事務所/自宅
静岡市駿河区富士見台2丁目3-34-13
TEL　FAX:054-282-0143
携帯電話:090-1279-1443
MAIL:kycdh891@yahoo.co.jp

日中は主として県庁内議員控室で活動しています